
空を駆ける鳥

MD

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空を駆ける鳥

【Nコード】

N5010Q

【作者名】

MD

【あらすじ】

少しばかりの思いつきネタ。Arcadiaにも投稿予定。

一羽の鳥が空を駆ける。

川を滑り、山を撫で、空に舞い、縦横無尽に駆け抜ける。

鳥は世界は我の物だと言わんばかりに、羽を大きく羽ばたかせ、滑空する。

空に浮かぶ二つの月、優しく鳥を包むかのように青く輝きを放っている。

——通りませ——

遙か彼方の空

どこまでも透き通るような詩が

咲いた

——通りませ——

音は

ゆつくりと身体に染み渡る。

月夜の光に、身を抱かれ、空を駆けた鳥は行く。

この詩は何なのか？
目指す先は分からない。

それ故に、鳥は空に行く。

森を越え、街を越え、空気の断層を越え、鳥は行く。

駆けた先に浮かぶは薄い雲の群。

音は近い。

雲は高い所にあるが、いけなくはない。

翼を広げ、大きく羽ばたく

——行く。

体を小さく、鋭角に。

本能赴くまま、速さを求め、高さを求める。

受ける風は、送る風となり、去っていく。

——負けるものか。

雲に入っても速度は衰えない。

寒い？ 苦しい？

関係がない。

もう歌しか聞えない。

無我夢中で空を昇る。

——抜けた。

雲を抜ければ、そこは静寂な夜の世界。
そこに————いた。

月の光に身を任せた、巨大なバハムートが。

だが——そこまでだった。

慣れない長距離飛行と高度飛行は鳥の力を容赦なく奪い去った。鳥は墜ちて行く。自ら意識が落ちていくのを感じながら……。

墜ちゆく中、鳥はバハムートを見た。

そして間違いを知った。

あれはバハムートなんかではなく、レヴァイアサンであるということに。

また、歌っていたのは一人の自動人形だったということに。

意識が落ちる最後に、自動人形と目が合ったような気がしたが、もうどうにもならない。

——ああ、満足——

空の自由を満喫し、音の正体を知った鳥。

意識を手放し、高度を手放し、落ちて、墜ちていく……。



「あ、ホライゾンでしょうかしたか？」

「Jud.。空から鳥が墜ちてきました。天の恵みでしょう——
たぶん」

「わあー、夜食は焼き鳥ですね。って！ 違いますよね！？ まだ

生きてますよね、その鳥!？」

（後書き）

最後の会話を思いついたがためにできた作品・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5010q/>

空を駆ける鳥

2011年10月6日08時07分発行